

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：82708

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K18765

研究課題名(和文) 雑魚流通をめぐる水産物流通の新展開と取引における垂直的調整システムの解明

研究課題名(英文) An examination of new developments in marine product distribution centered on the distribution of "commercially unpopular" fish and the vertically coordinated system of trading

研究代表者

副島 久実(Kumi, Soejima)

国立研究開発法人水産研究・教育機構・水産大学校・講師

研究者番号：40455499

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：目的：現在の量販店主導の水産物流通では“雑魚”扱いとなる水産物を積極的に流通させようとする主体に注目し、雑魚流通の取引における垂直的な調整システムの実態と課題をフードシステムの構造変化の影響と関連付けて明らかにすること。  
結果：最近には多種多様な前浜の“雑魚”を積極的に取りそろえることで激化する量販店間競争に勝ち抜こうとするローカルスーパーの増加に伴い、漁業者グループ等と直接取引も増加している。継続的な事例の中には売り手と買い手の個別交渉に基づき価格形成しているが、生産者側に価格決定のイニシアティブをもたせている例がある。だが、長期的にみるとスーパー主導型の産地取り込みが開始されているといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回、“雑魚”流通の取引について調査研究できたことから、国産水産物をうまく流通させるための一方法を検討することができた。また、現在の流通システム上、市場価値が低いとされてしまう水産物をいかに流通・消費させていくかが世界的にも大きな課題の一つとなっている中で、“雑魚”として扱われてしまう多種多様な水産物をきちんと流通できる流通システムを再構築しようとする日本の動きを検討できたことで、世界的な課題にも接近することができた。

研究成果の概要(英文)：Aim: To examine the main bodies actively encouraging distribution of marine products considered “commercially unpopular” in seafood distribution, currently driven by mass retailers, and to identify the realities and problems of the vertically coordinated system of trading “commercially unpopular” fish, with respect to the effects of structural changes in the food system.

Outcome: Recently, as local supermarkets increasingly try to survive intensifying competition among mass retailers by actively stocking a wider range of local “commercially unpopular” fish, direct transactions with fishing groups have increased. In ongoing cases, prices are determined by individual negotiations between vendors and buyers, but in some cases, producers are allowed the initiative to determine prices. However, in the long view, it seems supermarket-driven incorporation of production centers has started.

研究分野：農水産物流通論

キーワード：雑魚 漁業者グループ 漁村女性起業 漁協 ローカルスーパー

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

#### 増える“雑魚扱い”

日本では、津々浦々で地域色豊かな多種多様かつサイズも様々な魚が水揚げされ、そうした魚をきちんと評価し、流通させ、販売する流通業者や小売商が存在し、様々な料理法でおいしく食べるという食文化や消費者が各地に根付いてきた。

しかし、90年代に入り、強固なバイニング・パワーをもった大手量販店等によって、サイズや魚種が画一化され、大量・広域流通にそぐう魚種ばかりが強くと求められるようになり(濱田 2011 等)、大手量販店にとって種類、サイズ、量等の観点から扱いやすい水産物は評価されるが、それらの条件を満たさない水産物は価値の低い魚、すなわち雑魚扱いされる水産物が増えてきている(副島 2015 等)。たとえば、誰もが知っている“タイ”であっても上記の条件を満たさなければ“雑魚扱い”となることもしばしば起こっている。

#### 雑魚をビジネスチャンスととらえる動き-水産物流通の新展開-

一方で、上記のような状況を受けて、各産地では六次産業化等の政策的な追い風も受けて、漁協や漁村女性起業グループ等は、現在の市場では評価が低い雑魚に価値を見出していくような加工・販売等の取り組みが増加し、地域や漁家経営に貢献している。最近になると、産地だけでなく、ローカルスーパー等において、雑魚扱いされる多種多様な水産物を取り揃えることで、激化する量販店間競争に勝ち抜こうとする動きが顕著となってきた(佐野 2014)。つまり、雑魚を苦手としていた量販店が積極的に雑魚を扱おうとしている(副島 2010)、雑魚をめぐる量販店間の競争が激化している(副島 2010)、こうした量販店への対応として、卸売市場も雑魚類を取り揃えようと方向転換し始めている(副島 2008)、雑魚を扱おうとする量販店と産地での販売活動(直売所等)との間の競争も見られ始める等、雑魚流通をめぐる、これまでの量販店主導の水産物流通は新展開を見せ始めている。

また、量販店主導型の水産物流通が形成される中で、多種多様な雑魚を評価、仕分け、配送、販売する流通側の能力が低下してきた(秋谷 2006)。その点を漁村女性起業グループ等が代替する機能を発揮している(副島 2008, 副島 2015 等)。

### 2. 研究の目的

上述のように、産地のみならず流通・小売においても、こうした雑魚を積極的に扱おうとする動きが出てきていることは明らかとなったが、具体的にどのように雑魚を評価、仕分け、販売しようとしているのか、そこにおける課題は何か、川上から川下における垂直的関係の中でどのような取引と価格の合意調整システムがなされているのかといった点をまだ明らかにできていない。そこで、これらの点を明らかにすることで、現在の水産物流通の新展開の特徴と方向性を見通し、これからの水産物流通・市場のあり方について検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

本研究は、大きく、既存研究や統計等から“雑魚”流通および水産物流通の現段階的特徴を整理する理論的研究と、雑魚を積極的に取り扱おうとする主体を事例にして、垂直的な雑魚の取引関係とその調整システムを明らかにするためのインタビュー調査を基本とした実証的研究をすすめた。元来、多種多様な水産物が多く水揚げされてきた瀬戸内海地区を中心として、ローカルスーパー、卸売市場、漁協、漁業者グループ、漁村女性起業等の雑魚を積極的に取り扱おうとする主体を中心に取り上げた。また、事例研究を深めていくために、瀬戸内海地区以外の事例も補足的に研究した。

### 4. 研究成果

既述のように、最近では多種多様な前浜ものの“雑魚”を積極的に取りそろえることで激化する量販店間競争に勝ち抜こうとする動きが顕著となってきており(佐野, 2014)、ローカルスーパーが漁業者グループ等と雑魚の取引を開始する例が展開している。

それらの取り組みの中でも継続的な事業となっている事例に共通する点は、価格形成システムとしては、建値市場の平均価格をベースとした売り手と買い手の個別交渉に基づく価格発見だが、生産者側に価格決定のイニシアティブがあるということ、物流費等も量販店側が支出することで、生産者側の費用負担を減らそうとしていること等が明らかとなった。しかし一方で、こうした動きは、長期的にみるとスーパー側が今の時点から産地を確保しようとする動き(スーパー主導型の産地取り込み)の第一歩に踏み出している状況であること等も明らかとなった。また、量販店を中心として、これまで“雑魚扱い”とされるような前浜ものの魚を巡る競争が激しくなる中で、前浜ものの中でも水揚げ後の処理の仕方などによるワンランク上の水産物を揃えられることが、産地対応の一つとして重要性を増しており、“雑魚”流通をめぐる流通の細分化が起こりつつあるといえる。

女性起業については、“雑魚扱い”とされてしまう水産物に注目し、それらを加工することで利用していこうとする事業が多い。しかし、上記のようにローカルスーパーなどが差別化のために“雑魚扱い”の水産物の生産・流通段階への関与を強める中で、女性起業には原料となる水産物が供給されにくくなる状況も発生しており、“雑魚扱い”の魚を巡る競争が激しくなりつ

つある状況も明らかとなった。

< 引用文献 >

秋谷重男『日本人は魚を食べているか』漁協経営センター、2006年

佐野雅昭「水産物取扱いにおける小売業の動向と現代的特徴」東京水産振興会『水産物取扱いにおける小売業の動向と現代的特徴』2014、pp.1-4。

副島久実「雑魚を地域づくりのカギに」湊文社『アクアネット』第18巻第7号、pp.22-26。

副島久実「防府市場の状況とローカルスーパーの動向」東京水産振興会『水産物消費流通の構造変革について』2010年、pp.75-81

副島久実「広島県福山地区における水産物流通の現状と課題」東京水産振興会『水産物消費流通の構造変革について』2008年、pp.81-96

副島久実「漁業の陸上作業労働における女性従事の特徴と変化」『漁業経済研究』第59巻第2号、pp.75~91

濱田英嗣『生鮮水産物の流通と産地戦略』成山堂、2011

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 副島久実	4. 巻 第61巻第1号
2. 論文標題 ローカルスーパーにおける漁業生産との連携と地産地消型流通販売の実現 - スーパーマーケットと漁業生産との連携による競争力強化の根拠とその意義 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 漁業経済研究	6. 最初と最後の頁 53-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 副島久実・三木奈都子	4. 巻 第61巻第1号
2. 論文標題 漁業者・漁協による流通・販売への接近からみる地産地消型流通の展望	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 漁業経済研究	6. 最初と最後の頁 79-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Kumi Soejima
2. 発表標題 Issues facing wives of new fishers in Japan
3. 学会等名 MARE People and the Sea Conference X (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kumi Soejima
2. 発表標題 Fisheries Women's Groups in Japan: role and future perspective from past to present
3. 学会等名 MARE (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 副島久実
2. 発表標題 ローカルスーパーにおける漁業生産との連携と地産地消型流通販売の実現 - スーパーマーケットと漁業生産との連携による競争力強化の根拠とその意義 -
3. 学会等名 漁業経済学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 副島久実
2. 発表標題 解題：漁業者・漁協による流通・販売への接近からみる地産地消型流通の展望
3. 学会等名 漁業経済学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kumi Soejima
2. 発表標題 The situation of marine products distribution and fisheries women entrepreneurship groups in Japan
3. 学会等名 TBTI symposium on SSF in Asia-Pacific region (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Kumi Soejima and Mitsutaku Makino (Edt.Giovanni Bulian and Yasushi Nakano)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Edizioni	5. 総ページ数 177
3. 書名 The Development of Women Fishery Entrepreneurship Group in the Japanese Marine Products Distribution Sector (In Small-scale Fisheries in Japan)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----